

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-133	23-068	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名（原題／訳）		
Different measures of alcohol use as predictors of DSM-5 alcohol use disorder among adolescents – A cohort study from Sweden 青年における DSM-5 アルコール使用障害の予測因子としてのアルコール使用の異なる尺度-スウェーデンのコホート研究		
執筆者		
Raninen J, Karlsson P, Callinan S, Norström T.		
掲載誌		
Drug Alcohol Depend. 2024 Apr 1;257:111265. doi: 10.1016/j.drugalcdep.2024.111265.		
キーワード	PMID	
アルコール、青年期、調査、DSM-5、縦断的	38492254	
要 旨		
<p>目的：青年期の飲酒と将来の AUD の発生には関連があることが報告されているが、飲酒の指標には統一性がない。よって本研究は、スウェーデンの全国的な青年コホートにおいて、飲酒の様々な指標とアルコール使用障害（AUD）の発症との縦断的關係を調査すること、また AUD に対する飲酒指標の人口寄与割合（PAF）を推定することを目的とする。</p> <p>方法：2017年に9年生であったスウェーデンの青年3999人を対象に前向き縦断調査を実施し、2019年に追跡調査を行った。ベースライン評価では、過去の飲酒量、最近の使用量（過去30日）、危険な飲酒（AUDIT-C：アルコールのスクリーニングテスト）、大量飲酒（HED）を評価した。フォローアップ評価は、DSM-5のAUD基準を測定する11項目とした。本研究では、これらの多様な飲酒指標とAUDの有病率との比較、各指標とAUDの相対リスクPAFを算出した。</p> <p>結果：追跡調査時にAUDの基準を満たした飲酒者の割合は31.8%であった。調査開始時の飲酒に関するすべての指標は、その後のAUDと関連を示した。特に、HED群は51.4%と最も高いAUD有病率を示した（$p<.001$）。PAFは、過去の飲酒での区分での算出で最も大きく10.8%であったのに対し、最近の飲酒量区分で6.1%、危険な飲酒区分で7.4%、HED区分でわずか3.5%であった。</p> <p>結論：本研究は、青年期中期の飲酒が青年後期のAUD発症リスクを高めることを強調している。様々な指標の中で、大量飲酒が青年後期のAUDリスクを最も高めることを示した。公衆衛生の観点からは、あらゆる飲酒（指標）を予防対象とすることが、AUDの集団レベルの疾病負担を軽減する最も効果的な戦略であることが示唆された。</p>		